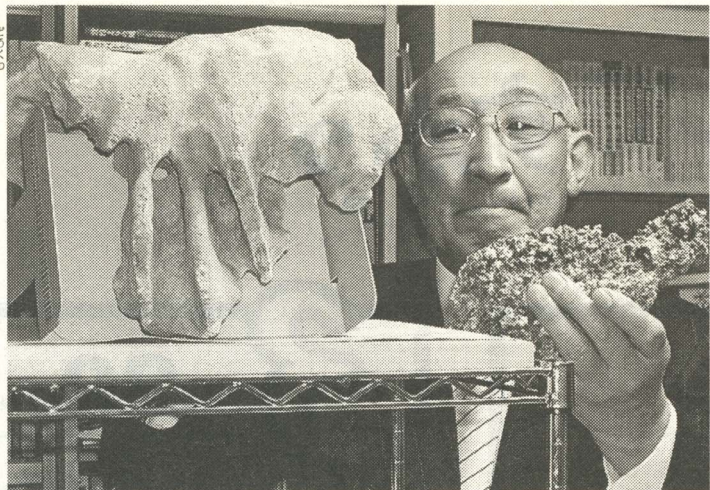


大阪経済法科大学教授

沢 勲さん(67)

大阪を創る



自宅には洞窟関連の資料展示室も。世界中から集められた岩石も見学できる—大阪市西淀川区

ている。不思議な空間だ。

見学者の反応を聞くと、

「感心されますよ。何とも

いえない空間でしょう」。

小学一年生の時、たいま

つを手に入れた洞窟を探検して以

来、洞窟の魅力に取りつか

れた沢教授。

大学での専攻は半導体工

学だったが、洞窟への興味

は抑えきれず、約二十五年

前から独自調査を開始し

た。これまでに五カ国で二

百カ所以上を調査してき

た。一九九六年には韓国洞

窟学会の学術賞を、外国人

では初めて受賞した。

現在は大学の仕事の合間

をぬって年間少なくとも

五、六回、多ければ十五回

ほど、調査に出かける。何

しろその多くは前人未到の

地。米映画の主人公、考古

学者のインディー・ジョー

ンズばりに、道に迷い、全

身擦り傷だらけになり、メ

ガネもつぶれる。

とにかく体力が不可欠な

納庫」のふた。開けた扉の

た鉱物約八十点が展示され

洞窟研究が高じて、自宅下、小さなはしが地下約
に「ミニ洞窟」を作り、希一桁まで伸びていた。
望者に公開している。その「ミニ洞窟」は幅約一・
洞窟を見せていた。三桁、奥行約一・五桁、
と、大阪市西淀川区野里の高さ約一桁。そろそろと下
ご自宅を訪ねると、教授はへ降りてみる。壁面に小さ
フロリングの床に敷かれた蛍光灯、空調が設置され
たシートをおもむろにめぐって、座った周囲には所
った。どうみても「床下収狭」と世界中から集められ
納庫」のふた。開けた扉のた鉱物約八十点が展示され

記者の見た目

取材の一週間前に美容整形で顔の「しみ取り」をしたというダンデ
イーな教授。洞窟の神秘もあってか、お肌はつやつや!

未 到 の 洞 窟 求 め 世 界 行 脚



書斎の床下に作られた「ミニ洞窟」。照明と空調が備えられ、「手軽に洞窟
気分になれる」と沢教授

現職は大阪経済法科大学の教養科目で「窟」の見学には事前予約(ファクス06・64
情報科学を教える教授。空手道八段 71・6686)が必要。洞窟の模型や、沢
で、詩人として詩集も出版しており、研究と 教授が世界各地で採取した鉱物のほか、写真
あわせた著書は約八十冊に上る。「ミニ洞窟」や書籍なども合わせて展示されている。

し、一時間ほど歩いたのかもしれない。その空気の二洞窟は本来、「ベッド
ち、ベンチプレスなどのト味わいは言葉では言い表せを置けるサイズにして、洞
レーニングを欠かさないとないねえ」。目をきらきら 窟気分を満喫しながらコー
いう。 させて語る教授。

「誰もいない朝の新鮮な 毎朝の時間は、論文の考とか。「大学の教授ならね、
空気が、洞窟に似ているん 察や新しいアイデアを練る それぐらいしないと」。こ
ですよ。四十五万年前にで ための貴重な時間にもなっ れから、まだまだ、何かや
きた洞窟なら、その当時の っている。 つてくれそうだ。
空気がまだ滞留しているの ところで、ご自慢の「ミ (木村さやか)